

教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 2 月 24 日

所 属： 獣医学部 動物応用科学科

氏 名： 寺川 純平 職位： 講師

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
家畜人工授精特別実習	A	選	3	44
専門ゼミ	A	必	3	1
科学の伝達	A	必	4	1
動物繁殖学実習	A	選	3	75
動物生殖制御論	A	選	4	28
動物繁殖学	A	必	2	152
動物受精卵移植論	A	選	3	60
毒性学-機器分析実習	A	選	3	47
動物解剖・生理学実習	A	必	2	133
基礎ゼミ	A	必	1	35

家畜人工授精特別実習・動物繁殖学実習：家畜の生殖器解剖、生殖細胞の操作・培養、人工授精・胚移植技術等の操作を体験し、動物繁殖学に対する理解を深めるための実習である。座学での知識を活用できるよう、実際の操作手順を確認しながら、なぜその操作が必要なのかを理解してもらうよう努めた。

専門ゼミ・科学の伝達：研究活動の基礎となる部分について、実験動物の取り扱いに関する参考書の読解と解説を中心に講義を行った。研究分野に関する論文紹介を行い、最新の情報を提供し、学生の研究への興味関心が高まるよう努めた。質疑応答により双方向性を高めた。

動物生殖制御論・動物受精卵移植論：動物繁殖学の発展的講義として、動物繁殖学の復習を行いながら、さらに深い内容、より専門的な話題や最新の研究内容、社会動向についての講義を行った。

動物繁殖学：生命現象の理解に重要な学問である。基礎的な部分の理解が身につくよう図説資料の提供と解説を多く行なった。動物、特に哺乳類における生殖機構の共通点、相違点を理解してもらうよう努めた。また学生が繁殖学に対する興味関心が高まるよう研究の歴史と最新の話題について情報提供を行った。前回講義の質問回答と復習を次回講義に行うことにより、学生の講義への理解が深まるよう努めた。

毒性学-機器分析実習：毒性学実習は、化学物質の安全性評価や信頼性のある試験方法について。資料を用いた模擬体験および動物や標本の観察を通して理解を深める実習である。グループ単位での活動を主体とし、学生自身の動きの多い実習となるよう努めた。

動物解剖・生理学実習：動物機能解剖学や動物生理学で学んだ知識を深めるための実習であ

る。ニワトリの肉眼解剖を担当し、学生の興味関心が深まるよう努めた。 基礎ゼミ：「疑似科学」をテーマに、身近な情報の真偽、根拠を考えてもらうための話題を提供した。学生には各々テーマを決めて調べ、プレゼンテーションを行なってもらった。資料作成やプレゼンテーションの方法についての講義を行った。
2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）
基本的には、「学生の学問・研究に対する興味関心の向上」「減点方式でなく加算方式の教育」「双方向性を重要視したアクティブラーニング」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。多くの情報が溢れている現代社会で、それらを自分で理解し、判断し、適切に対応できる人材を育成する。また、動物応用科学の視点から「社会にどのように貢献できるか」をしっかりと考え、実践できる人材を輩出する。そのために、学生との対話の機会を多く持ちたいと考える。
3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）
教育の目的と目標：「学生の学問・研究に対する興味関心の向上」「減点方式でなく加算方式の教育」「双方向性を重要視したアクティブラーニング」を実施する。 対面、オンラインに関わらず開始時間を守った講義・実習と余裕のある講義・実習内容を心がけている。フィラーによる受講学生のストレスがないように気をつけ、自分の講義録画を確認し改善を目指している。
<u>アクティブラーニングについての取組</u> 講義後の質問対応や課題提出により一方的な情報の提供にならないようにし、学生が講義・実習内容について自分で消化理解し、疑問点を明確にできるよう取り組んでいる。実習についてはグループワークによる主体性を重視する。
<u>ICT の教育への活用</u> 學理を用いた質問対応や課題提出を行っている。映像資料や Web サイトを活用した講義資料の提示を行っている。
4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）
<u>①教育（授業，実習）の創意工夫（B）</u> 学生からの意見・評価を取り入れながら、講義内容（どこまで専門的か）や進行方法の改善が必要である。 <u>②学生の理解度の把握（B）</u> 課題内容を工夫することによって理解度の確認が必要である。 <u>③学生の自学自習を促すための工夫（B）</u> 書き込み型の資料を配布する等、工夫が必要である。 <u>④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）</u> 講義後の学生の質問には全て回答し、必要に応じて資料の提供を行った。 <u>⑤双方向授業への工夫（A）</u> 講義では時間内でのリアルタイムの双方向性の確保が難しいが、講義後に質問や感想を募集し、適宜解説や回答をした。実習では各グループの進行度を確認して、適宜補助や助言を行った。 ※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない） 上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。 <u>⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載）</u>

してください。)
5. 学生授業評価
① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。 講義の開始当初はオンライン講義への対応が十分でなかったため、入手可能なデバイスを用意して対応した。書き込みする文字の大きさを調整し、書き込みのため時間を確保した。 ② ①の結果はどうでしたか。 概ね良好だったと認識している。 ③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。 ほかの先生方が使用されている有効なデバイス・アプリ等を使用し、さらにわかりやすく面白い講義ができるようにする。回を重ねるにつれて改善できたため、次年度は初回から対応する。 ※分量の目安：4～7行（160字～280字）
6. 学生の学修成果
1 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。 <u>(参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。)</u> ② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価 ※分量の目安：4～7行（160字～280字）
7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況） FD 研修会に参加し、動画視聴を行なった。 ※分量の目安：1～2行（40字～80字）
8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン） 教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。 該当の分野に少しでも興味が湧くよう、最新の話題を交えて講義・実習を組み立てたい。また、基礎的な部分の理解が進むよう、重要な部分については繰り返し提示するとともに、小テストを実施するなどをして理解を深めるようにする。学生評価の高い講義・実習になるよう努め、関連する分野の研究を希望する学生の数を増やす。 ※分量の目安：3～6行（120字～240字）
9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ シラバス、授業に関するコメント

* A4 4枚程度 (A4 1枚(目安1行40文字×36行1440文字))